

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1 全国「検査と健康展」in 神奈川（中央会場）

P2 日臨技支部医学検査学会開催報告（2）【九州支部】

P3 2025年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修（秋）を開催！
/医学検査への論文投稿を目的とした初心者向けWEB講習会

全国「検査と健康展」in 神奈川（中央会場）

臨床検査のこと、それを担う私たち臨床検査技師のことを広く知っていただくために、日本臨床衛生検査技師会は、厚生労働省、医療関連団体の後援を得て毎年11月を中心に全国「検査と健康展」を全国で開催しています。本年度も中央会場の神奈川県をはじめ、全国の都道府県で実施しています。中央会場を皮切りに、本号より各都道府県技師会からの報告と会場の様子を順次ご紹介していきます。

本年は中央開催ということもあり例年より規模を拡大し、横浜新都市ビル9階、地下2階の2フロアに渡ってイベントを開催しました。9階では検査体験を実施しました。どの検査体験も好評で多くの参加者の方に集まっていただけましたが、特にニンテンドーは匂いを嗅ぐことで認知症スクリーニングができるという手軽さからか多くの人が集まっているのが印象的でした。また、専門医による健康相談ブースに加え、メタボ健診に関する講演会を実施し、参加者の方の健康意識の向上に寄与できました。地下2階では技師会より支給されたリーフレット・缶バッジ・ポケットティッシュなどを配布した他、フォトブース・塗り絵ブース・検査技師養成学校の案内ブース・赤十字や振興協議会ブース等の若年者に向けた臨床検査技師の啓発活動を実施しました。ご家族で来場される方も多く、お子さんの興味を引くことはできましたが、保護者の方はそのままお子さんと共に素通りしてしまうこともあり、若年者向けとは言え保護者の方の興味を引く内容を用意することも必要であると感じました。今後の課題としてより一層多くの人に臨床検査技師を周知できるよう、啓発活動に取り組んでいきたいと考えております。

（神奈川県臨床検査技師会 脇坂 佑紀）



会場の様子



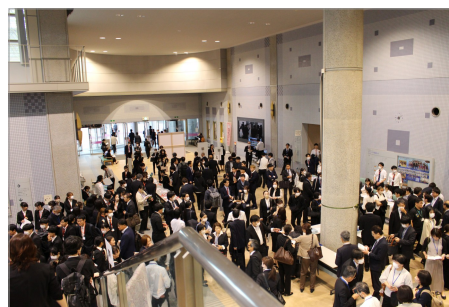
次号からは各地方会場の様子を紹介します。

日臨技支部医学検査学会開催報告(2)

2025年度 九州支部医学検査学会

開け未来への扉 臨床検査の新たな価値を創造

学会長 門脇 和秀
実行委員長 中村 孝男



参加者で賑わう会場
受付の様子

2025年10月18日～19日、長崎県大村市にあります、シーハットおおむらを会場として、2025年度 日臨技九州支部医学検査学会（第59回）を、一般社団法人長崎県臨床検査技師会が担当し現地開催いたしました。メインテーマを『開け未来への扉』サブテーマを「臨床検査の新たな価値を創造」といたしました。

昨年度から準備をはじめ、2023年に開通した西九州新幹線を利用しての来場者が多いと予想され、新大村駅から会場までのシャトルバスの運行も企画いたしました。

学会1日目は、「今が旬・・・臨床検査『次のステージ』へ」というタイトルで、日臨技 横地会長の基調講演から始まりました。講演の中で、デジタル技術の普及に伴い新たな働き方が求められていること、また私たちのタスクシェア先は、意識改革や業務の効率化、技術革新、生成AIなどを活用したデジタル技術であると話され、今後の検査室のあり方、進むべき方向性を示していただきました。

また、教育講演として「救急医療の現状～働き方改革のなか高齢社会にどう取り組むのか?～」というテーマで、長崎大学病院高度救命救急センター救急・国際医療支援室室長(教授) 早川航一先生に講演いただきました。

さらに、今学会の目玉である文化講演として、「原爆80周年：人体影響サマリー」というテーマで、長崎大学名誉教授 朝長万左男先生にご講演いただきました。今年は長崎に原爆が投下されて80周年の節目の年で、放射線の人体影響の持続性をはじめ、長崎大学での研究について分かり易くご講演いただきました。

また、長臨技企画Ⅰ・Ⅱとして「大規模災害における臨床検査技師ができること」また「タスク・シフト/シェアを進めるために～好事例に学び明日に活かす～」を企画いたしました。特にタスク・シフト/

学生フォーラムの様子



シェアに関しては、好事例を通して導入の経緯や進め方などを知っていただけたと思います。

学会1日目終了後の情報交換会は、188名の参加をいただき、長崎の海の幸・皿うどんなどがテーブルにあがるなか、アトラクションとして中国の変面ショーがあり、3名の変面師の方が顔に手をかざすと次々にお面が変わっていくパフォーマンスを披露され、会場の雰囲気は盛り上がりしました。

学会2日目は、「ポンペ・ファン・メールデルフォールトによる日本初の近代臨床検査医学講義」と題して長崎大学名誉教授 相川忠臣先生に長崎の医学史についてご講演いただきました。

また、日臨技企画として「『医学検査』の今後と論文の執筆について」というテーマで日臨技 小松専務理事にご講演いただき、学生フォーラムとして、「臨床検査技師の未来～養成校と臨地実習施設の立場からみた臨地実習のあり方～」として9名のパネリストに講演いただきました。

学会メインとなる一般演題は九州各県から91題のエントリーをいただき、参加者数は日臨技会員654名、賛助会員(企業ブース等含め)269名、非会員及び学生119名の参加をいただきました。

最後になりますが、本学会にご参加、ご協力いただきました皆様方に長崎県臨床検査技師会より御礼申し上げます、ありがとうございました。

2025年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修(秋)を開催！

この制度は臨床検査部門だけの管理者に留まらず、将来それぞれの職場で医療技術部門のリーダーや経営管理も担える人材を育成するために創設された認定制度です。事前にeラーニングでの講義を受け、一定レベルの内容を習得、夏と秋に行われる集合研修を受けることで受験資格が得られます。

夏の集合研修に続き、秋の集合研修が11月1日（土）～2日（日）の2日間開催されました。秋の集合研修は「自院の経営環境分析スキルをマスターする」をテーマに、15名が受講し、病院経営について学びました。



研修の様子

◇ 参 加 者 か ら の 感 想 ◇

末永 晴香（河北総合病院）

「医療経営に対する戦略・戦術」をテーマに、医療を取り巻く外部環境・内部環境について考える2日間の研修会に参加しました。

1日目は神戸先生より、昨今の医療機関が直面する厳しい経営状況や、その状況を打開するために必要な戦略の要素についての講義の後、外部環境分析としてマクロ環境に着目したグループワーク、そして地域の需要と供給を考える個人ワークを行いました。グループワークでは、政治・経済・社会・技術の観点から機会と脅威を洗い出すPEST分析を実施、その後、オープンデータを活用し、人口予測や競合施設、医療従事者数を調査し、自施設が属する地域の現状と課題を考察

する個人ワークを行いました。

2日目は、内部環境分析として「ヒト・モノ・カネ・情報」の4つの切り口から8テーマのピラミッドストラクチャーを作成するグループワークに取り組みました。夏研修で学んだ「イシューをおさえる」という観点を意識しながら、メインメッセージ、キーメッセージ、それを支える根拠を、自施設での事例やこれまでの経験を共有し合いながらまとめていきました。同じテーマでもグループによって導き出されるキーメッセージが異なり、多様な視点や考え方を知ることができた点がとても印象的でした。

外部環境は常に変化し続けること、また改めて多様な考え方の重要性を実感しました。

医学検査への論文投稿を目的とした初心者向けWEB講習会

本講習会は、医学検査分野においてこれから論文投稿を目指す初心者の方を対象に、論文執筆の基本的な知識と投稿までの流れを理解することを目的としています。執筆のための事前準備、テーマの選定、実験の仕方、データの整理、論文の構成、投稿規定の読み方、参考文献の扱い方など、基礎から丁寧に解説し、論文執筆に対するハードルを下げることを目指します。会員専用ページから、是非、ご参加ください。

配 信 期 間：令和8年1月8日（木）から12月30日（水）
 申 込 期 間：令和7年12月1日（月）から令和8年12月28日（月）
 受 講 料：無料
 点 数 付 与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点

（編集後記） 空気が冷たくなり、地域によっては雪の便りも届く季節となりました。インフルエンザの流行も例年より早く、体調管理がより一層大切な時期です。今号では、全国で行われた支部学会や研修、地域イベントなど、多彩な取り組みをご紹介します。現場で日々積み重ねられる努力や交流の様子が、皆さまの励みや新たな気づきにつながれば幸いです。

（綿引）